

《チャイルドラインデータ資料》 2023年度・第1四半期 【集計データから、子どもたちの状況を読み解く】

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

▶ 今期のテーマ「いじめ」 ◀

▶ 2023年4月～6月のアクセス内容と分析 ◀

《第1四半期のテーマ「いじめ」》

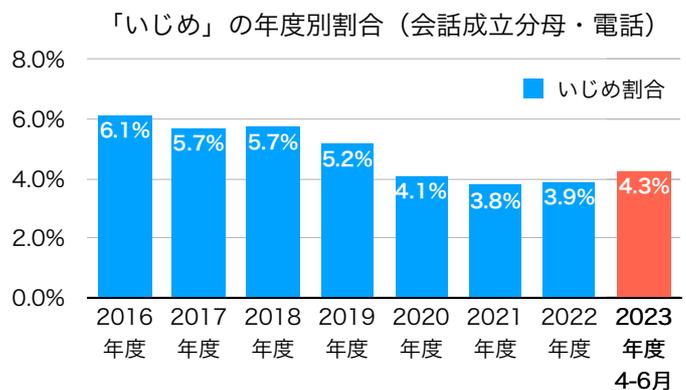
長年にわたって、子どもの大きな悩みの1つであるのが「いじめ」です。チャイルドラインにおいても、「深刻な悩み」の中の常に最上位にいじめの声が届いています。過去7年間の「電話」について、傾向を見つつデータ集計を行いました。

データベースでは、「いじめ」に関する集計項目が「学校・いじめ」「部活・いじめ」「ネット・いじめ」「職場・いじめ」の4種類あり、今回はそれらを合計して分析しました。

また、さまざまな分析項目がありますが、今回は下記の5つの集計・角度に絞って、ご紹介します。データの割合は、主に「会話成立を分母としたいじめの割合」で集計しました。

◆ 「いじめ」の年度別割合

2016年から2023年までの年度別を見てみると、いじめは2020年度以降に減少傾向があります。これは、コロナ禍における休校処置などの学校生活における変化の要因が強く影響していると考えられるので、通常期においていじめが減少しているかは今後の傾向を見ていく必要があります。

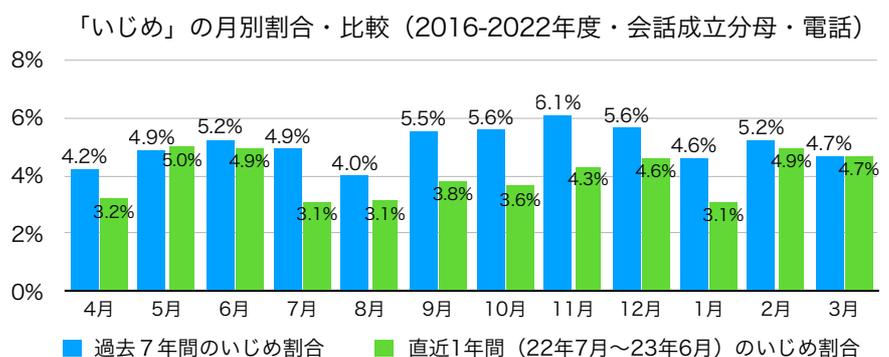


◆ 月別傾向（全体と直近1年）

2016年度以降～現在までの通期をまとめ月別割合にしました。

一般的に「いじめ」は「2学期に増加」と言われ、そこでの対応の議論が注目されがちです。

しかし、今回の過去7年間の集計からは、6月、11月、2月と学期ごとにピーク月があり、いじめでよく注目される「2学期」以外にも注視する必要があります。

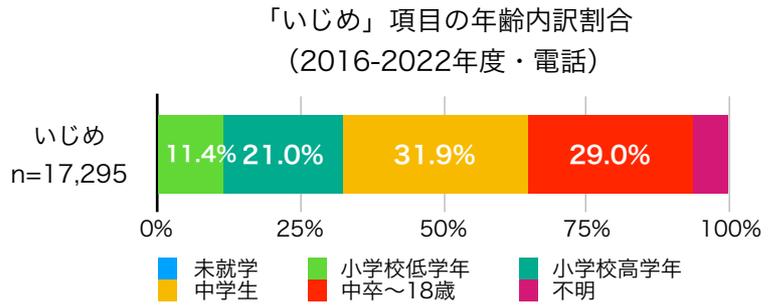


「直近1年間の月別傾向」においては「7月～1月」は低い割合です。これはコロナ禍の影響が続き、対外的な交流（大会）やイベントの制限などが要因となった可能性があります。一方、特に「2月～6月」は2023年の3カ月で、いじめがコロナ禍以前の平均レベルに近づいている可能性があります。

◆いじめの年齢割合

「いじめ」の年齢割合を見てみました。中学生が最も多く、次いで高校年齢、小学校高学年と続いています。

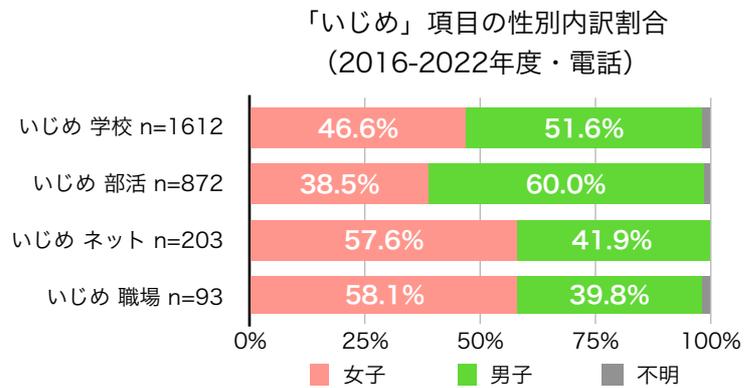
近年、文部科学省の「いじめ認知件数」においては、「小学校低学年の件数」が急激に上昇しているため、このデータと矛盾して見えますが、そもそも文科省データは、認知件数の取り方の強化などで「集計数を増やした」ことの影響を考慮する必要があります。一方、チャイルドラインでは、いじめに関する年度別の年齢割合に大きな変動は見られません。「いじめの実態」をみるには、チャイルドラインのデータや他の研究調査データを見ていくなど、多角的に検討していくことが必要と思われる。



◆いじめの性別割合

チャイルドラインの集計では、これまで、生物学的な視点における性別を基準にデータ集計を行なってきました（2023年度は、ここにLGBTQ+などの性的マイノリティに関する集計も開始しました）。

いじめに関する項目の性別を見てみると、「ネット」「職場」の割合は女子が多いのに対して「学校」「部活」に関する割合は男子が多い傾向です。特に部活で男子の割合が高いのは、気になるところです。

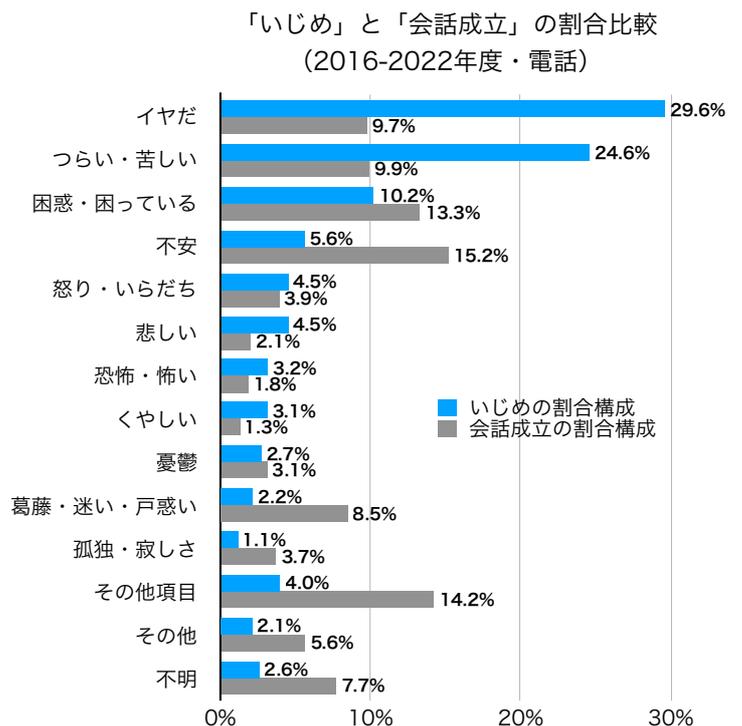


◆「気持ち」に関する傾向

最後に「気持ち」に関する「いじめ」項目と「会話成立全体」の項目を比較する形で集計しました（単数集計）。

いじめで上位にくるのは「イヤだ」と「つらい・苦しい」ですが、「困惑・困っている」も3番目に多く、はっきりとした「心身の苦痛」があるだけではなく、対処法など向き合わざるを得ないことへの困惑・悩みも伺えます。

一方、全体の傾向を示す「会話成立」との比較においては、会話成立では「不安」「困惑・困っている」、また「葛藤・迷い・戸惑い」「その他項目」（「うれしい・楽しい」「自分に自信がない」など）など、項目が分散し、いじめとは、だいぶ違うことがわかります。



◆まとめ

チャイルドラインのデータにおいては、「いじめ」に関する悩みは、平均して「5%程度」あることがわかりました。年代によってやや減少傾向に見えますが、コロナ禍での環境の変化による変動も大きく、通常に戻った今年度以降の傾向を注意深く見ていく必要があります。

また、文部科学省の調査との違いもあります。特に月別傾向や年齢割合、学校内、部活内、ネット上などの項目別に見た傾向も注目していく必要があるでしょう。また、他のテーマを含む会話成立全体と比べ、「いじめ」は心身の苦痛がより強く感じられていることも明らかになりました。

今回の「いじめの集計」を通して見えるのは、チャイルドラインデータは、受け手が感じた子どもの状況を集積したものなので、間接的データと位置付けられはしますが、他の外部調査と比較しても、より「実際の声・傾向」が集積されている可能性がありそうです。さらに、さまざまな視点や角度で、いじめテーマの分析を行なっていくほか、他のテーマについても同様に分析を進めていく予定です。

◆子どもたちの声（2023_第1四半期の事例）

- ▶ 学校で嫌なことをされて親が学校や教育委員会に言ったが解決しなかった。暴力だけを「いじめ」と言うんだな…。3年になっても続くと思うとつらい。
- ▶ 部活でいじめられていて誰にも相談できない。部活はやめたくない。
- ▶ 家にも学校にも居場所がない。学校ではいじめられているし、家では出来ていないことばかり指摘される。
- ▶ ネット上で悪口を書かれた。問いただすと「私じゃない」と言われた。友達だと思っていたのにショックでどうしたらいいかわからない。
- ▶ 今の担任の先生は、「いじめを受けているとわかったら親に連絡する」っていったから嫌。いじめられっ子の気持ちも知らずにそんな事言ってほしくない。
- ▶ 今は友達もちょっとはいるし、誰も私のこといじめない。でも、いじめのトラウマから立ち直れない。被害妄想がヤバイ。
- ▶ 私は、学校で虐められています。睨んできたり仲間はずれにされたり、無視してきたり、避けてきたりします。でも、誰にも相談出来ません。いつも、生きている意味が私にはあるのかを考えてしまいます。
- ▶ 最近学校に行きたくなくなりました。いじめられ始めた。靴箱に死ねと書いた紙がおいてあったり、机に落書きされた。前はついに無視された。なんで。私は何も悪い事していないのに。でも自分がなにかしたからなのかな。私が悪いのかな。それに気づかない私は死んでもいいのかなあ。誰にも言えない。誰か助けて。
- ▶ なにか問題がおこったら私のせいにされる。いじめっ子がいじめてくるって言ったら、みんないじめられる方の理由があるから、あなたが悪いって。家族に話してもあんたが悪いって。生きる意味ってなんだろう。
- ▶ うざい友達がいる。いじめられている。だから、学校には行ってない。

※個人が特定されないようプライバシーに配慮して再構成しています。

《データ資料概要と注意点》

2023年4月～2023年6月のアクセス内容、データベースを集計し分析

チャイルドラインに寄せられた子どもたちの声にどのような傾向があるのか。チャイルドラインにおける“データベース”等を基に、集計しました。

- ・ 期間：《2023年度・第1四半期》2023年4月～2023年6月（速報値）
- ・ データ集計日：2023年8月10日

・ 集計数（分母）：

【トラフィックデータ】（発信件数・今回使用したデータのみ掲載）

	1月	2月	3月	3ヶ月計	4月	5月	6月	3ヶ月計
2022年度					39,287	43,236	39,785	122,308
2022/23年度	31,910	30,121	30,318	92,349	28,976	30,624	32,590	92,190

【データベース】（件数・今回使用したデータのみ掲載）

	4月	5月	6月	3ヶ月計
2022年度（全体）	14,439	15,427	15,291	45,157
2023年度（全体）	13,115	13,686	13,974	40,775
2022年度（会話成立）	4,166	4,426	4,410	13,002
2023年度（会話成立）	3,977	3,912	3,784	11,673

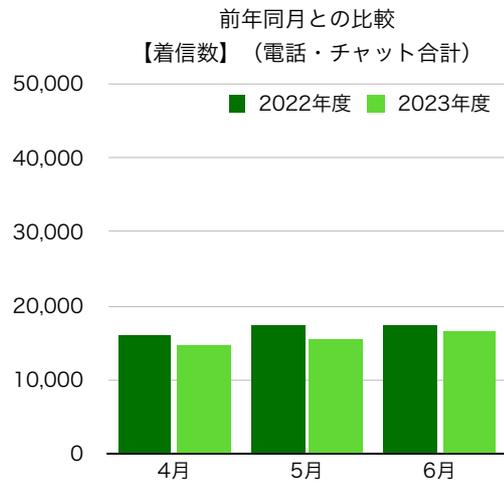
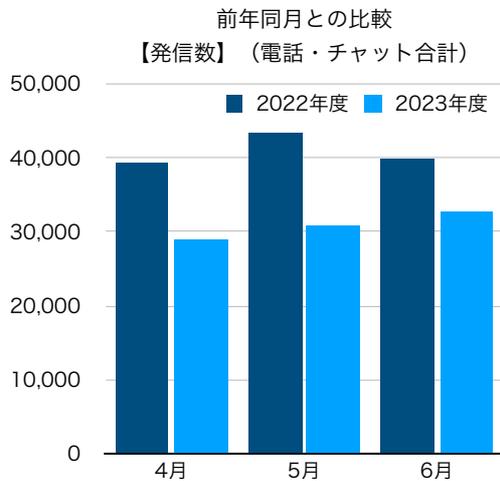
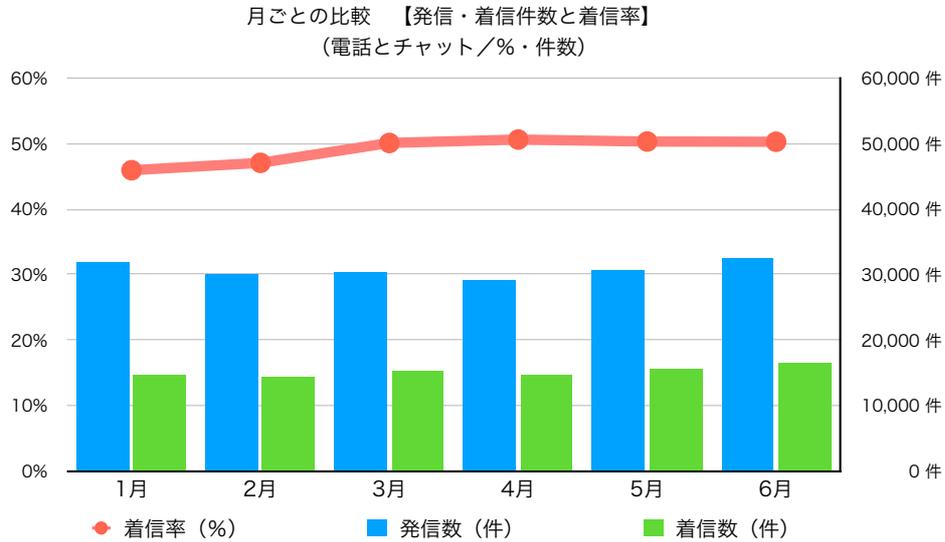
※（全体）は会話成立、会話不成立、無言等を含んだ全体集計数 ※他資料とはデータが異なる場合がある。

- ・ 表記の定義：
 - 「％」＝上記項目の分母（集計した数）の割合
 - 「件」＝データベースに入力されたアクセス・会話件数
 - 「ポイント」＝パーセントポイント（他の％をポイントにして比較）
- ・ データの種類：【トラフィックデータ】電話＝NTTコミュニケーションズ、チャット＝AI.BiSから取得
【データベース】電話・チャット＝「受け手」が感じた内容を子どもが特定できないようプライバシーに配慮し、データベースとして集積
- ・ データの性質：データの誤入力や重複、未入力データがある等、今後、修正が生じる可能性があるため、「速報値」であることを前提として扱う必要がある
- ・ データの注意点：各データの小数点をまとめる際に集計上の誤差が生じるため、グラフのデータと他のグラフデータに数字の違いが生じる場合がある
- ・ 報道関係の皆様へ：データ・資料について取材、ご利用・ご引用の際は、チャイルドライン支援センター（連絡先最終ページ）までご一報ください。

《トラフィックデータ／発信数・着信数》

トラフィックデータの発信数・着信数（電話とチャット）は、この3ヶ月では、発信数は6月に多かった。6ヶ月の推移を見てみると、着信率は、3月から50%を超えている。着信数は大きな変動はなかった。

前年同月との比較を見てみると、発信数は5月に増加し、着信数は4～6月にかけて増加した。

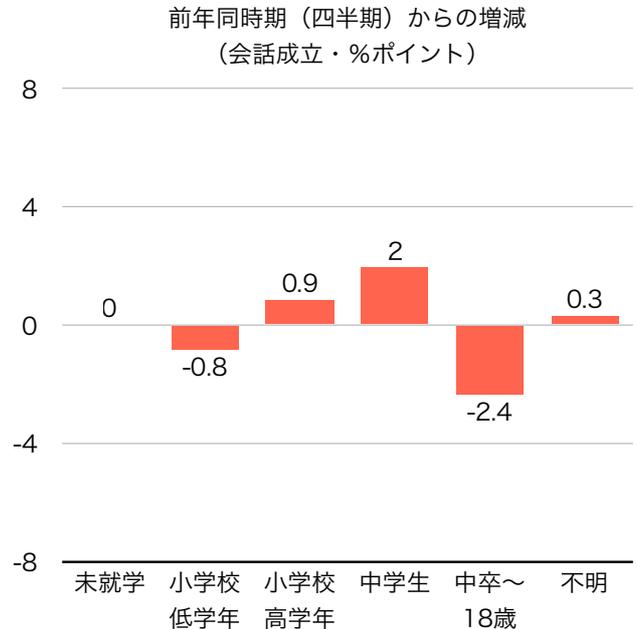
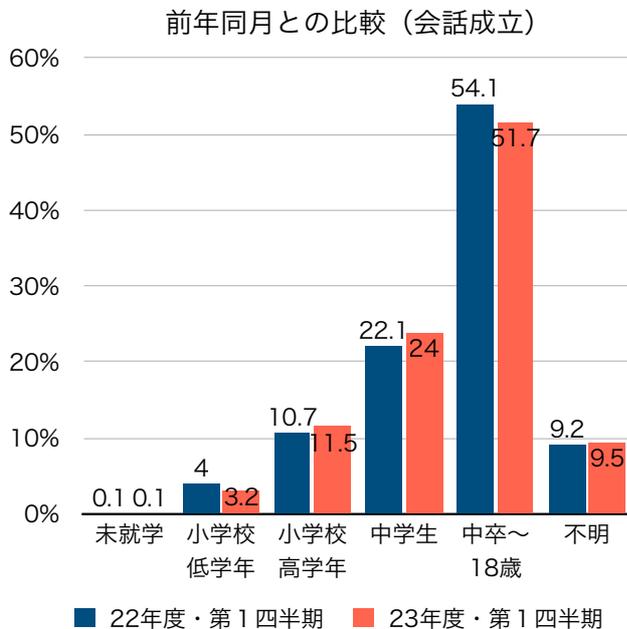
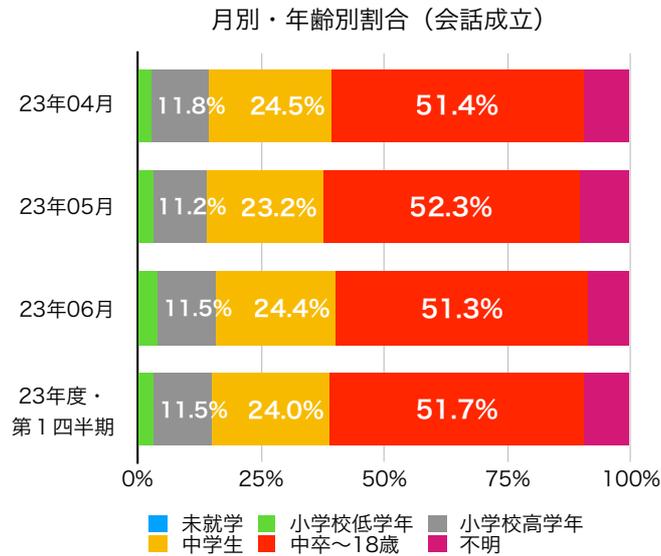


《データベース・年齢（会話成立）》

ここからはデータベースの「会話成立」（電話とチャット。以降のデータも同様）に絞ったデータを紹介する。まず「年齢」別の集計から。

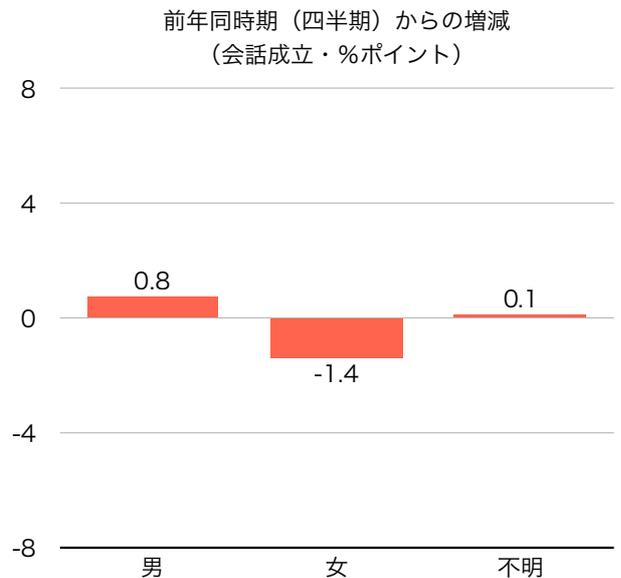
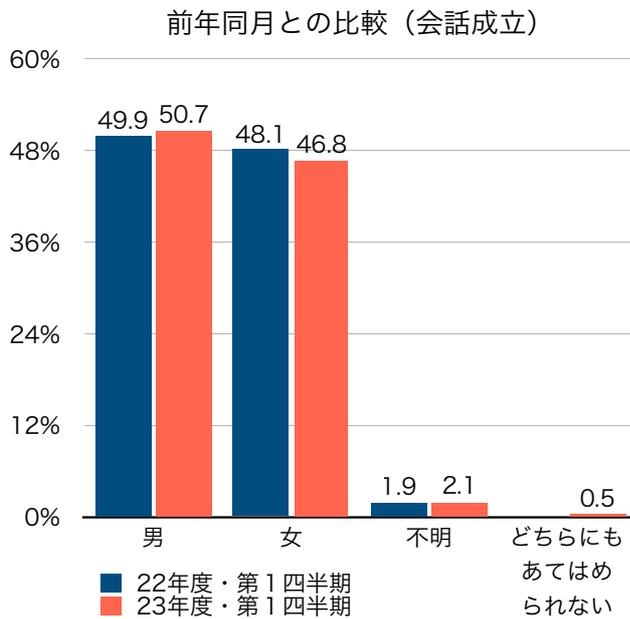
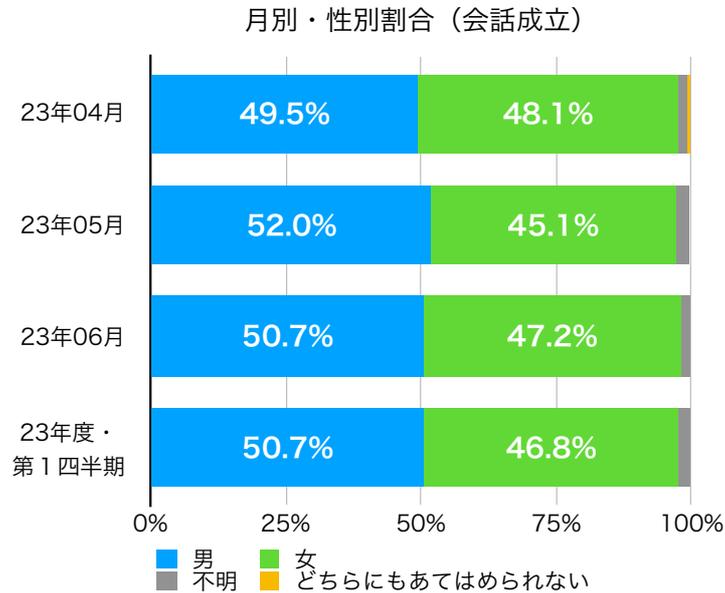
年齢の割合は、3ヶ月通じて高校年齢割合が多く（約5割程度）、月別割合はやや5月に高校年齢が多かった。

前年同時期からの増減は、高校年齢の割合が下がり、小学校高学年や中学生などが上がった。



《データベース・性別（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「性別」を集計した。男女ともに割合に大きな変化はない。前年同月との比較では、男性が増加し、女性が減少した。

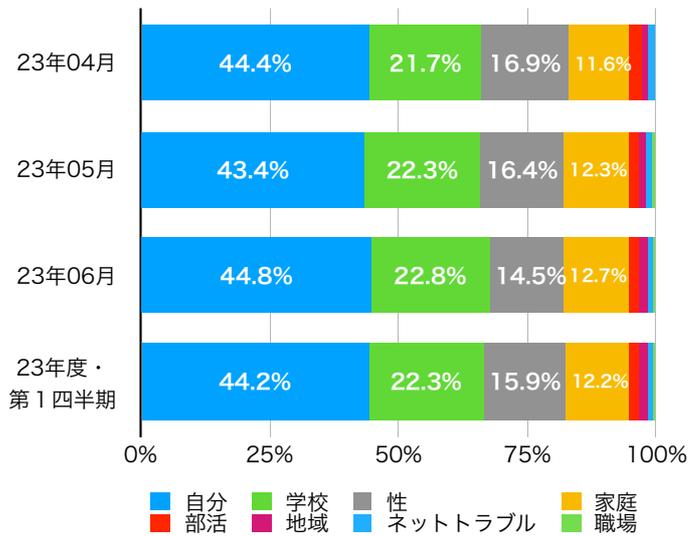


※「どちらにもあてはめられない」は2023年度から新たに項目を追加しました。

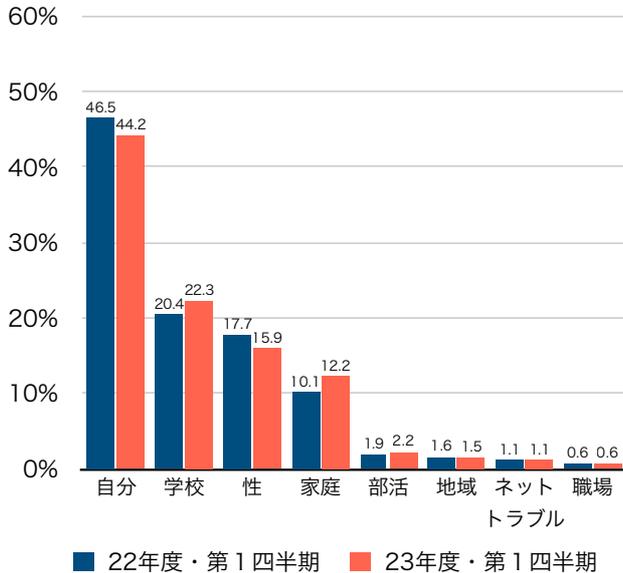
《データベース・主訴【大項目】（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「主訴【大項目】」を集計した。6月は「自分」がやや増加し、「性」が減少している傾向にあった。前年同月との比較は、「学校」「家庭」がやや増加し、「自分」「性」が減少した。

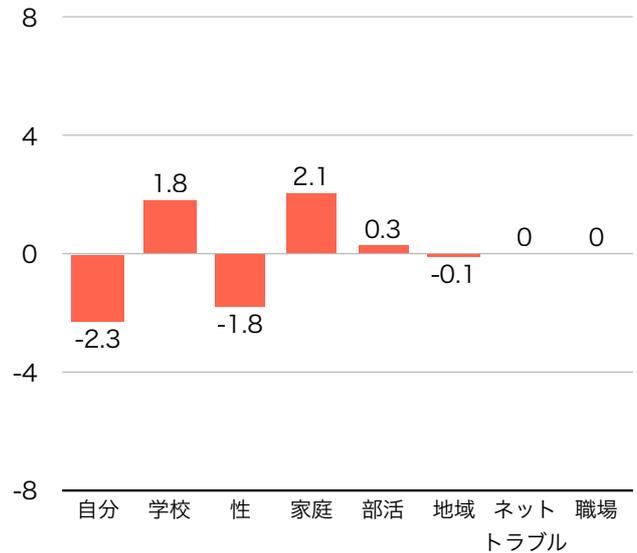
月別・主訴別割合（会話成立）



前年同月との比較（会話成立）

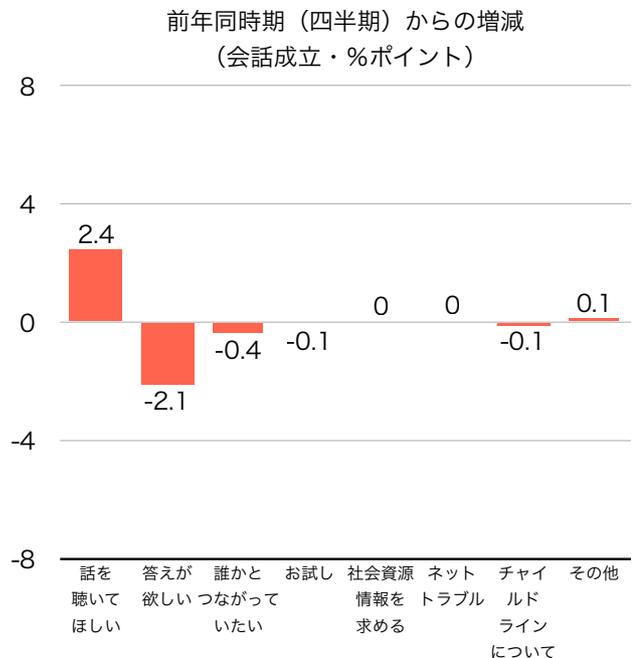
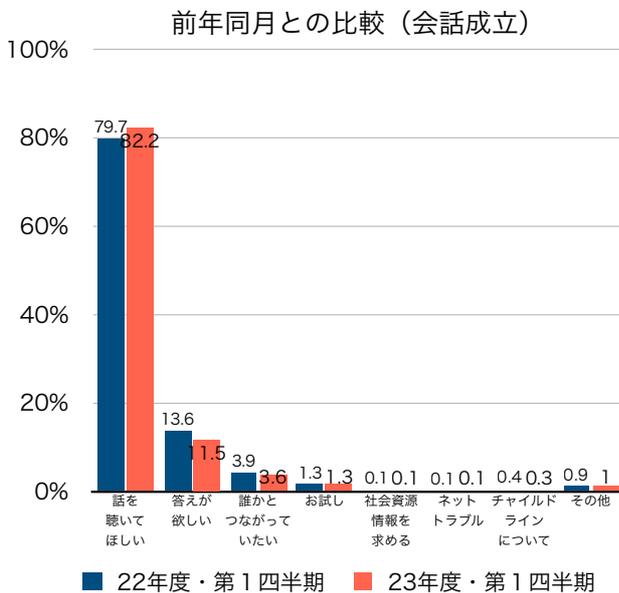
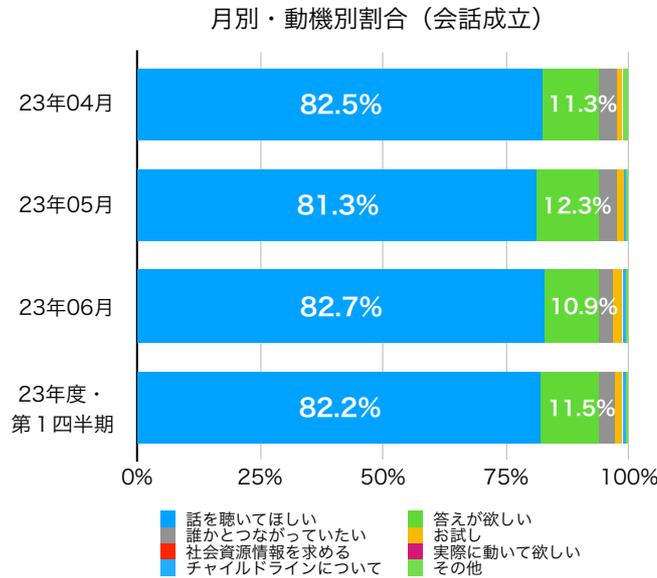


前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）



《データベース・動機（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「動機」を集計した。全体として「話を聴いてほしい」が大きな割合を占めている。前年同月との比較は、「話を聞いてほしい」が増加し、「答えが欲しい」が減少した。

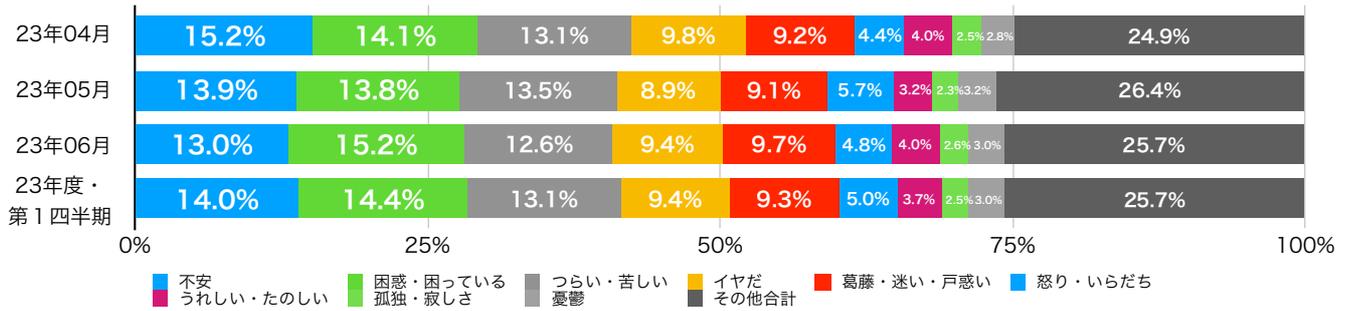


《データベース・気持ち（会話成立）》

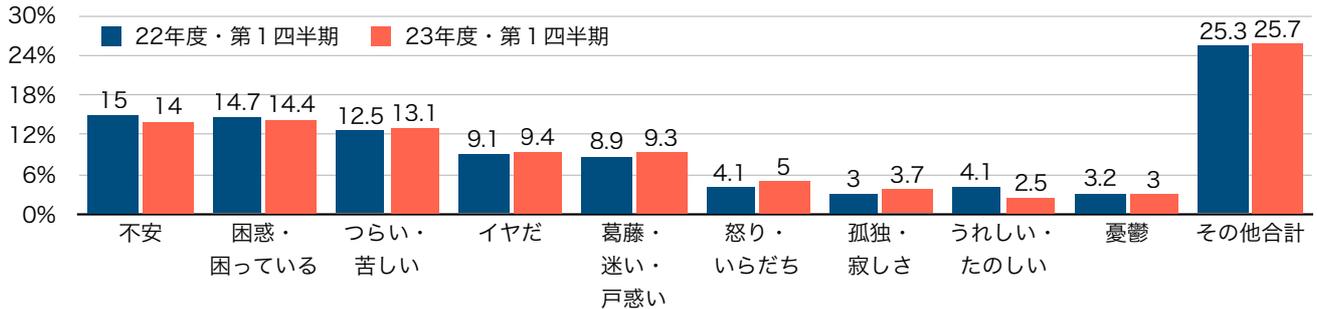
データベースの「会話成立」の中の「気持ち」を集計した。月別割合を見ると、「不安」「困惑・困っている」がやや多いが、6月の項目にやや変化があった。前年同月との比較においては、「不安」「うれしい・たのしい」などがやや減少し、他のいくつかの項目が上昇した。

(※一部、項目において、割合が多い順ではない箇所があるが、前回グラフの割合順に統一して表記した)

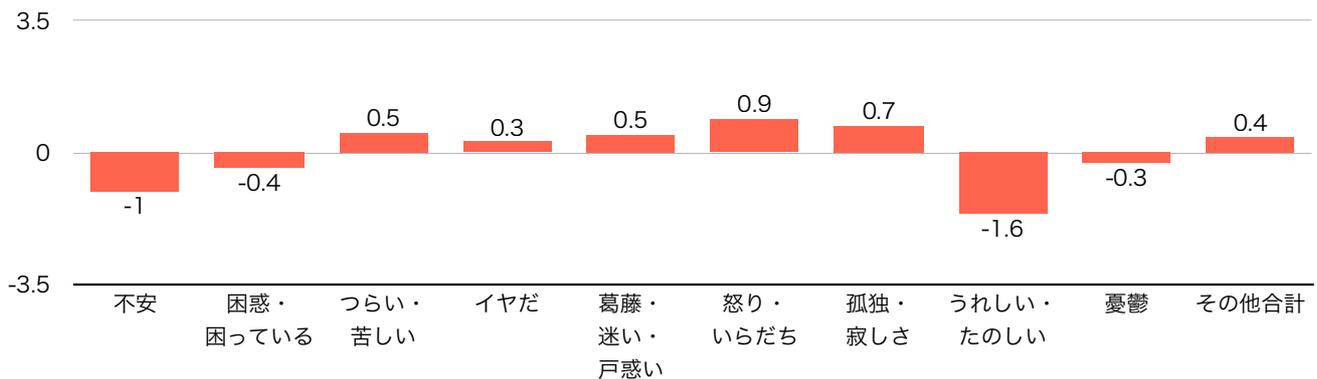
月別・気持ち別割合（会話成立）



前年同月との比較（会話成立）



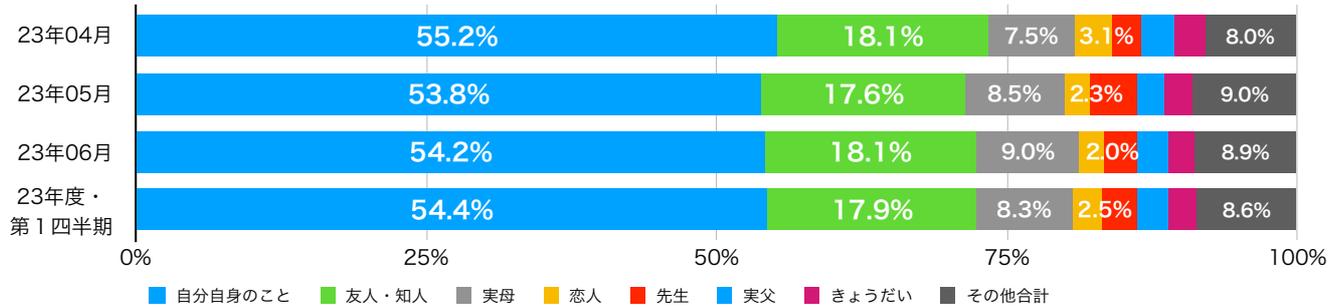
前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）



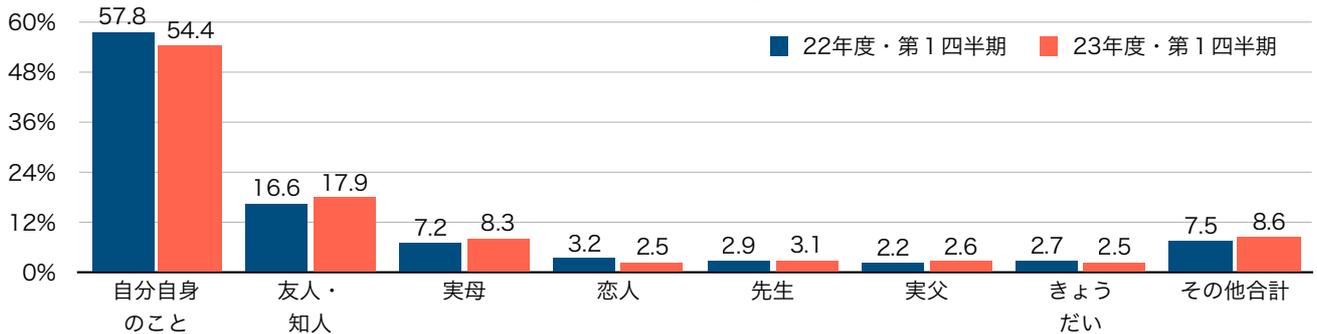
《データベース・関係性（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「関係性」を集計した。全体として「自分自身のこと」の割合が多い。前年同月との比較は「友人・知人」がやや上昇し、「自分自身のこと」がやや減少した。

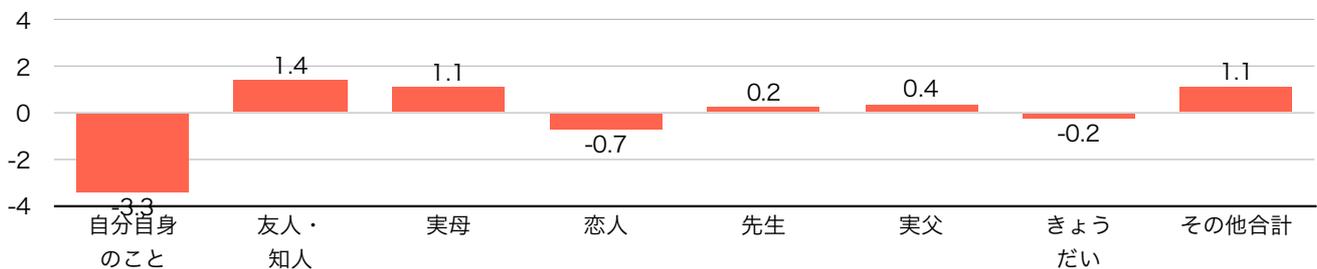
月別・関係性別割合（会話成立）



前年同月との比較（会話成立）



前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）

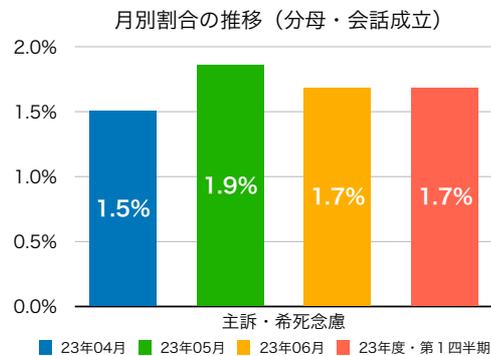


《データベース・「希死念慮を主訴とするもの」(会話成立)》

データベースの「会話成立」のうち、「希死念慮を主訴とするもの」を集計した。集計数が少ないので、参考値。月別割合の推移は、他のページと違い、グラフ数値を拡大している。

希死念慮を主訴とするものの件数

年月	件数
23年4月	60件
23年5月	73件
23年6月	64件
合計	197件

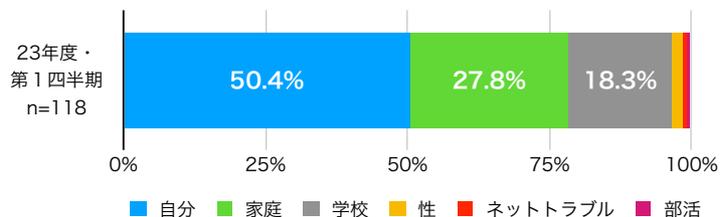


《データベース・「希死念慮が背景にあるもの」(会話成立)》

データベースの「会話成立」のうち、「希死念慮が背景にあるもの」の「主訴」を集計した。各月で僅かな変化はあるが、件数自体が少ないので誤差の範囲と考えられる。また、主訴の割合を見ると、自分、学校、家庭が多い(前回グラフと同じ順番にしている)。

背景に希死念慮がある件数

年月	件数
23年4月	44件
23年5月	39件
23年6月	35件
合計	118件



《「つぶやく」に寄せられた声の傾向》

こちらは、ウェブページ上の「つぶやく」に寄せられた声を集計したもの（属性などは自己申告・記入）。4月から6月につぶやかれた件数は、4,447件。さまざまな内容、性別、年齢の子どもから利用されていることが分かる。

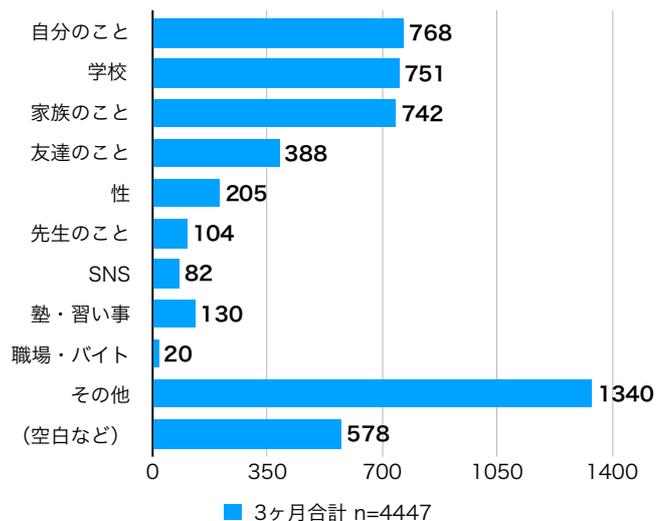
つぶやいた内容のジャンルは、「自分のこと」「学校のこと」「家族のこと」が多く、続いて、「その他」「友達のこと」となっている。続いて、性別は、「女性」が圧倒的に多い。また「いいたくない」という回答も2割程度いた。

また、年齢は、概ね10歳から13歳ぐらいまでが各10～17%と最も多い。

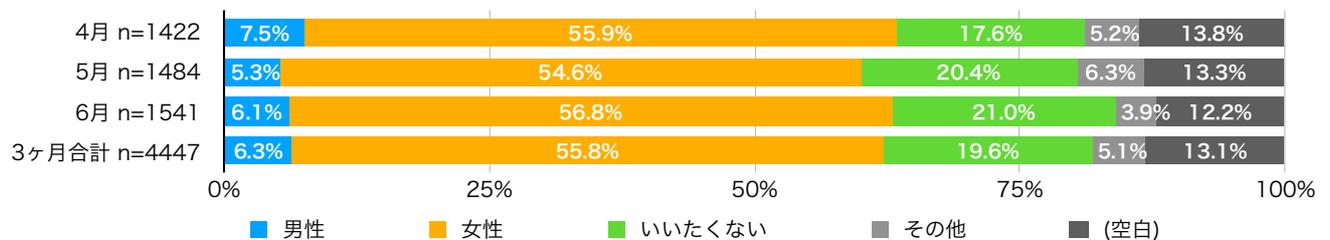
つぶやきに書き込みがあった総数

4月	5月	6月	合計
1,422件	1,484件	1,541件	4,447件

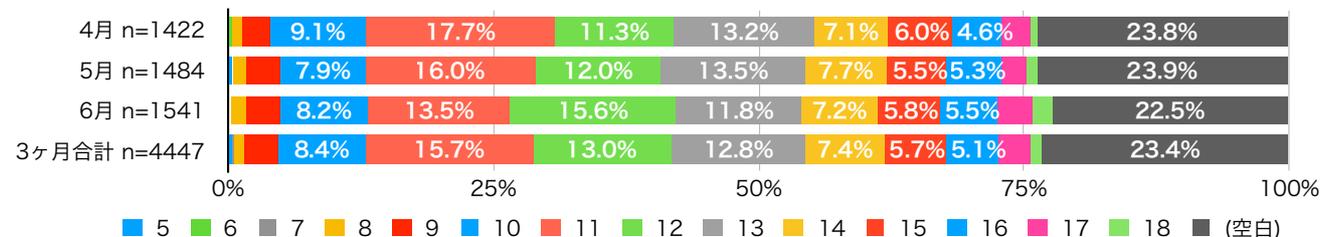
【つぶやく】テーマ別・複数選択（全体）



【つぶやく】月別・性別割合（全体）



【つぶやく】月別・年齢割合（全体）



【この資料に関する問い合わせ】

作成：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター
〒162-0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5F
メール：info@childline.or.jp 電話：03-5946-8500
ウェブサイト：<https://childline.or.jp/>